認定NPO法人
多文化共生センター東京 ニュースレター
Multicultural Center TOKYO News Letter

学びあい、わかりあう みんぐる

mingle

2024.11
Vol.79

たぶんかギャラリー
＜ネパール＞
バグルン(Baglung)の街の風景
たぶんかフリースクール杉並校Gさん撮影

Top News …1
わたしのくに紹介 …1
特集… 2
特別授業紹介･･･3
たぶんかフリースクールの毎日… 4・5
多言語高校進学ガイダンス…6
活動報告（フリースクール） …7
活動報告（土曜日学習支援教室・放課後教室）…8
活動報告（ハートフル）… 9
先生・インターンの声… 9
多文化 Voice…10

Top News

在京外国人生徒等対象の選抜等

代表　栁木　典子

11 月になり、長かった暑い夏から秋の気配を感じるようになりました。たぶんかフリースクール、土曜学習支援教室、金曜放課後教室は、昨年度を上回る外国にルーツを持つ子どもたちが、通ってきています。受入れもいっぱいの状況です。そして、3か月後には、高校入試が始まります。

昨年度の東京都の外国籍の生徒のための在京外国人対象入試は、受検応募者が非常に多く、約 150 名の不合格者が出るという厳しい状況でした。こうした状況を受け、9月には、都教育委員会からいくつかの変更点が発表されました。

変更点	2023 年度（令和6年度入学生まで） →	**2024 年度（令和7年度入学生から）**
① 在京外国人生徒等対象の選抜実施校	**8 校**：国際高校、竹台高校、田柄高校、南葛飾高校、府中西高校、飛鳥高校、六郷工科高校、杉並総合高校 （4 月入学定員:総計 160 名）	**12 校**：国際高校、竹台高校、田柄高校、南葛飾高校、府中西高校、飛鳥高校、六郷工科高校、杉並総合高校、**一橋高校、浅草高校、荻窪高校、砂川高校** （4 月入学定員：総計 240 名）
② 応募資格 国籍要件	・外国籍を有する者に限定	・国籍を問わず日本語指導が必要な者の応募資格を認める。
③ 在日期間要件 （但し日本の中学3年、既卒生について）	・3 年と入学準備等の 1 か月までの 3 年 1 ヶ月以内としていた。	・入国後の在日期間を延長し、3 年 3 か月までを 3 年以内とみなす。 ・「ルビ付き、辞書持込み」の申請要件も同じ期間

上記の①～③は、長年、当センターを含め外国にルーツを持つ子どもたちを支援する団体等が改善を要望してきたことです。一歩前進ですが、入試内容や高校進学後のサポート体制等については、まだまだ、多くの課題があり、実態の把握と改善を進めていくことが、必要です。

また、10 月末に文科省より不登校、いじめの調査の報告が出されましたが、過去最大の数となっています。不登校児童生徒数 34 万人の中には、日本語支援を必要とする子どもたちが、相当数含まれていると考えます。外国にルーツを持つ子どもたちの不登校状況の実態調査も求めたいと思います。

わたしの くに 紹介 ～ネパール～

今号の「わたしのくに紹介」は、美しい自然に恵まれた国ネパールです。ネパール出身の生徒が母国の学校の様子について作文を書きましたので、紹介します。

私の学校はネパールのバグルンにあります。(日本の)小学 6 年生から高校 3 年生まで（6 年生から 12 年生まで）通います。全部で約 500 人の学生がいます。

私の学校では、毎週金曜日にイベントをします。例えば、スポーツのイベントがありました。サッカー、ランニングとバレーボールをしました。一位になった学生はメダルをもらえます。わたしも一位になって、メダルをもらいました。とても楽しかったです。

学校のルールはとても厳しかったです。「髪を長くしてはいけません」「携帯電話を使ってはいけません」「制服を着なければいけません」というルールがありました。イベントがとてもたくさんありましたから、私はこの学校が大好きです。でも、とても厳しいルールはきらいです。【杉並校　G さん】

特集　都立高校における日本語指導を必要とする生徒の現状

小綿　剛さん（多文化共生センター東京理事　高校支援担当）

1．都立高校への入学

義務教育段階の小中学校と異なり、高校で学ぶには入学試験という壁を乗り越えなくてはならない。この壁は日本語を母語としない子どもたちにとっては大変に高い。そこで都教委は 2011 年に開始した飛鳥高校を皮切りに、「在京外国人等特別選抜」（在京試験）という制度を設けて、特別な試験を行うようになった。昨年度の入試では 8 校が在京試験を行っている。また、在京試験の受験資格を持たない生徒（来日して 3 年以上経過した生徒や日本籍しか持たない生徒など）は、日本人の一般受験生と同じ試験を受けなければならないが、こうした受験生への配慮として、試験問題へのルビ振りや、試験の際の辞書の持ち込みの制度も導入されている。これにより一定程度都立高への入学はしやすくなったといえるが、それでもまだまだ試験のハードルは高い。

2．昨年の入試の状況と今年の入試

昨年の都立高校入試では、在京外国人入試を実施している８校（定員 160 名）に対し 309 名の受験者があり、在京試験全体での倍率は 1.93 倍に達した。このため、多くの生徒が希望した高校に入ることができなかった。不合格となった生徒は 3 教科入試の定時制や定員に達しなかった全日制高校へと進学した。その結果、これまで以上にさまざまな学校に日本語指導の必要な生徒が在籍するようになっている。

この状況を受け、都教委は今年度入試から在京試験を行う学校を４校、定員も８０名増やして２４０名とすることとなった。しかし、これまで受験できなかった日本国籍の生徒についても受験可能となったため（このこと自体は歓迎すべきことだが）、倍率はむしろ上昇するのではないかと危惧されている。

高校名	定員	応募	合格
国際	25	73	25
飛鳥	20	42	20
田柄	20	37	20
竹台	20	38	20
南葛飾	20	42	20
府中西	20	40	20
六郷工科	15	15	12
杉並総合	20	22	20

在京試験の倍率（2024 年度入試）

3．都立高校での支援

日本語指導が必要な生徒が入学してきたら、都立高校ではどのような支援や指導が行われているだろうか。

まず、日本語指導の形態としては、「選択日本語」などの学校設定科目の設置、国語や社会など日本語の難しい科目での取り出し授業、授業内への支援者の入り込み、授業外の日本語補習などが行われている。ただしその形態や指導時間数は各学校でまちまちである。在京試験を行っている 8 校では、ほとんどの学校で年度当初から設置されているが、それ以外の学校では、日本語指導を必要とする生徒が入学してきた際に、年度ごとに都教委に申請して指導を始めるケースが多い。また、学校によっては教科学習の支援や、外国籍生徒のための進路ガイダンスを行っている。さらに保護者会や新入生ガイダンスに通訳を配置するといった工夫を行っている学校もある。しかしながらそうした取り組みもまた学校ごとに異なっていて、全く行っていない学校もある。

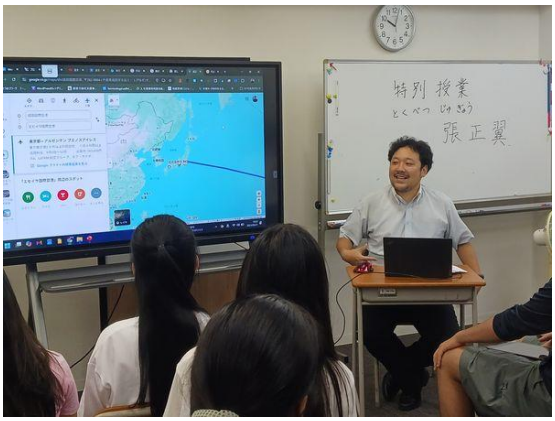
昨年度から、高校でも学習指導要領によらず、個々の生徒に応じた日本語指導が可能になる「特別な教育課程」を置くことが可能になったが、様々な事情で都立高校では現在のところまだ導入はそれほど進んでいない。

4．課題

前述のように、都立高校における支援状況は学校任せになっている現状がある。都教委は日本語指導を必要とする生徒に総合的に対応するための部署を昨年度より設置したが、まだ効果を上げているとは言いがたい。また、学校の中では、ノウハウを持った専任教員の育成と配置がこれからは必要になると思われる。さらに、実際に日本語指導に当たる非常勤講師や外部指導員の発掘や質の向上も、これからの重い課題となっている。

報告　たぶんかフリースクール特別授業紹介

張正翼さん（多文化共生センター東京監事　行政書士）



８月 21 日たぶんかフリースクール荒川校において当センター監事で行政書士をされている張正翼さんによる特別授業を実施しました。自身の経歴から、学校に行くこと・勉強することの意味や必要性、将来の進路についてなど熱く語っていただきました。外国ルーツの子どもたちにとって、大いに参考になる話でした。張さんから授業の概要を寄稿いただきました。

私は韓国籍ですが日本で生まれ育ちました。子どものころは全く勉強をしない子でした。中学卒業後、一人でアルゼンチンに移住し、約３年間サッカーの練習をしていました。プロになることはできず私は 19 歳で日本に帰国し、その後は「スペイン語を活かして働くしかない」と思い、通訳学校に通い始めました。勉強だけではなく、様々な団体で通訳として活動していく中で多文化共生センター東京と出会い、事務局スタッフとして関わるようになりました。また、通訳する中で自分自身でビザや国籍の手続きができる必要性を感じて資格を取得し、現在は大久保で外国籍の方のビザなどの相談に対応する仕事をしています。

私の最終学歴は「中学卒業」です。また、日本で生まれ育ち、日本語が母語の私にとって、日本の高校に通うことは今でも魅力的ではありません。しかし、外国で育った皆さんに対しては「学歴は関係ないから学校に行かなくていい」とは決して言いません。高校は日本語を学び、日本人の思考や習慣を理解するのに最適な場所です。日本の高校進学率は 98.7%です。高校に行かないということは、それだけで社会で生きていく上でとても大きなハンデになります。学歴を問われない仕事もありますが、体力的にずっと続けるのが難しかったり、収入が不安定だったりします。

もし、今はやりたいことがわからなかったり、どうしても今、学校に行くとできないことがあったりするのでなければ、将来の選択肢を広げるためにも、高校、できれば大学に進学することをお勧めします。

日本では「若いうちの苦労は買ってでもしろ」という格言があります。10 代、20 代で言葉のわからない外国で暮らし、さらに高校に行くというのは普通の人は体験することがないとても大変なことです。しかし、それは誰もができることではない貴重な経験になります。

みなさんと同じ年ぐらいの頃、10 代後半で挫折した私は「日本で中卒で外国籍で生きていけるのか」と不安がありました。しかし、そこからまずはスペイン語、その後は自分が必要だと思ったことは外国語以外でもいろんなことをたくさん勉強し、今は自分がやりたいと思うことだけやる生活ができています。

外国で生きることはとても大変で不安があるかもしれませんが、みなさんはすでにそれぞれの「母語」や「文化」を持っています。「母語」や「文化」だけでは仕事につなげるのは難しいですが、そこに日本語やいろんな知識をかけ合わせれば必ず社会に出てやりたい仕事の幅が広がると思います。

将来自分がやりたいことをイメージしていろんなことを勉強をし、自分自身がやりたいと思うことを実現できるように頑張ってください。（そのためにはやはりまずは日本の高校を利用するのがオススメ！）
困難に立ち向かう皆さんを、心から応援しています！

たぶんかフリースクールの毎日

UBS グループ社員との交流イベント
「伝統文化体験と私の発表」

9 月 21 日(土)、たぶんかフリースクールを支援いただいている UBS グループ社員さんとの「伝統文化体験と私の発表」イベントが行われ、社員ボランティアさん・生徒・講師あわせて 75 名が参加しました。

昨年に続き、サンパール荒川にて「江戸手描提灯」「かるた」の２つの日本の伝統文化に触れました。

「江戸手描提灯」は東京都伝統工芸品に指定されており、泪橋大嶋屋提灯店の四代目である村田健一郎さんにご指導いただきました。

生徒たちは事前に漢字を一文字、理由を考えながら決めました。日本語を学び始めたばかりの生徒にとって、漢字は「ひらがな」「カタカナ」の先にある、本当に難しい文字です。一つひとつの漢字は記号ではなく、意味を持つものであると初めて知る生徒もいました。

私は「晴」れが好きです。私は家族の平「安」を祈ります。私は何かをしたい強い気持ち「志」が好きですなどなど。モンゴルの生徒は「空」、イスラムの生徒は「月」などお国柄がにじむ漢字もあれば、お金が好きだから「財」「發」、と現実的な選択もありました。

大嶋屋さんの手によって描かれた見事な江戸文字をしっかりと濃い黒でなぞったあとに色を選んで漢字を塗ります。できあがった提灯に LED のろうそくを灯すと暗い中にみんなの漢字が浮かび上がりました。

他にも日本語レベルにあわせた「かるた遊び」の時間を設けました。幼児対象の「ひらがな」かるたを楽しむクラスから、象形文字の成り立ちを学ぶ「漢字」かるたまで。百人一首で坊主めくりを楽しむクラスもあり、白熱したゲームが繰り広げられました。また、和室でのかるた遊びとなったクラスもあり、最近は和風旅館以外では見ることが少なくなった畳に驚く生徒もいました。

最後に「私の発表」と題し、それぞれが自分の伝えたいことを発表しました。日本語を勉強してまだ２週間のクラスは大きな声で自己紹介をしました。しっかり練習し自信を持って大きな声で発表することが一番大切だと事前に繰り返し練習しました。

スナックタイムでは荒川区の NPO 法人かがやきさんが運営する「小台橋あさがおパン工房」のラスクをいただきながら、日本語でおしゃべりをしました。

初めて会う日本人の大人と話すのは、生徒たちにとっては本当に大変なことです。「自分の日本語でやり取りができた」という自信を積み上げることで来年の面接にのぞむ勇気もできていくでしょう。

UBS グループのみなさま、本当にありがとうございました。

たぶんか
フリースクールの
毎日

セールスフォース・ジャパン社員との交流イベント「東京オフィス訪問」

10 月 18 日（金）、セールスフォース・ジャパン社員さんとの交流イベントが行われ、社員ボランティアさん・生徒・講師あわせて約 80 名が有意義な時間を過ごしました。

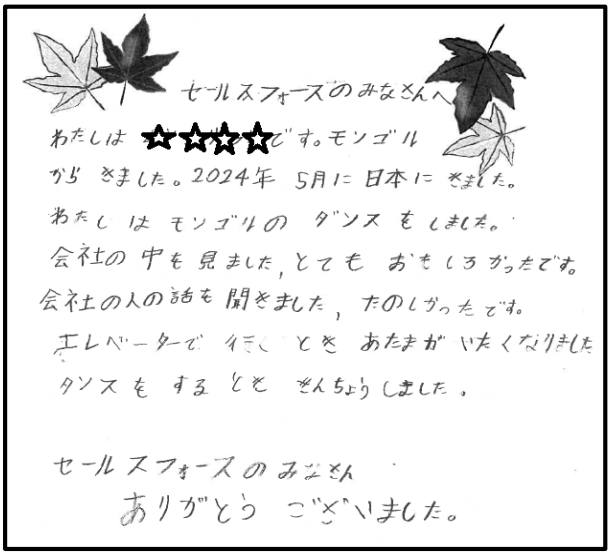
今回は初めての試みとしてフリースクールの生徒たちが皇居そばにあるセールスフォース・ジャパン東京オフィスを訪問しました。社員ボランティアのみなさんからライフキャリアワークを聞き、フリースクールの生徒からは学校紹介やクイズ・作文の発表とパフォーマンスを行いました。

ライフキャリアワークでは社員ボランティアさんが今までどんな経験をして今の仕事につながったのかを聞くことができました。生徒たちは自分が将来就きたい仕事の名前を挙げていきました。「医者」「アカウンタント」「トレーダー」などそれぞれの夢を語っていました。夢の実現のために具体的な道筋を立てている生徒がいる一方、自分の意思ではなく母国から離れ夢をあきらめたと語る生徒もいました。社員ボランティアさんは一生懸命に生徒の話を聞き、笑いをまじえながら生徒の言葉を引き出してくれました。外国ルーツの社員さんは「自分が日本語を勉強し始めたのは高校生の時です。今は日本語と英語で仕事をしています。君たちのほうがきっともっと上手になるよ。」と励ましてくれました。

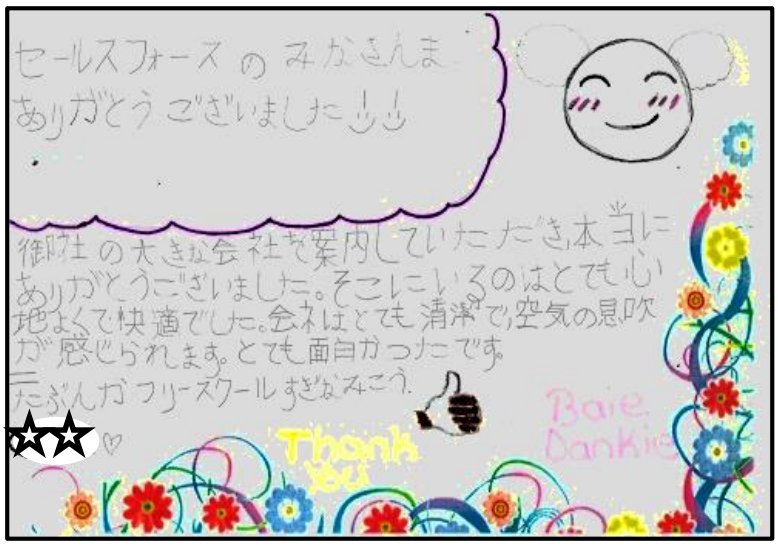
オフィスツアーではさまざまなフロアを案内していただき、デスク、カフェや一人部屋、オンラインミーティングなどさまざまなスタイルで働く社員さんの様子を見学することができました。どの生徒もグローバルな大企業の内部を見るのは初めてでいろいろな質問をしていました。「プログラマーになって将来ここで働く」という生徒もいました。その後はフリースクールから発表を行いました。スライドを利用した各校・各クラスの紹介のあと、国旗と「ありがとう」の言葉のクイズをしました。今年のフリースクールの生徒のルーツは 16 カ国にあります。自分の国の順番がまわってくるとうれしそうにマイクをとり、国のことばで「ありがとう」と言う姿はとても誇らしそうでした。

各校発表では杉並校は作文を読み、荒川校は希望者による国紹介とダンス・民族舞踊のパフォーマンスをしました。たくさんの方の前で緊張したけれど、やり終えた生徒たちはとても良い表情をしていました。

セールスフォース・ジャパンのみなさん、貴重な経験の場をいただき本当にありがとうございました。


セールスフォースのみなさんへ
わたしは ☆☆☆☆ です。モンゴル
から きました。2024年 5月に 日本に きました。
わたし は モンゴルの ダンス も しました。
会社の 中も 見ました, とても おもしろかったです。
会社の人の話も 聞きました, たのしかったです。
エレベーターで 行く とき あたまが いたくなりました
ダンス も する とき ぜんちょうしました。

セールスフォースのみなさん
ありがとう ございました。



TOPIC　日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス

10 月 20 日(日)に新宿コズミックセンターで「日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイダンス」を行いました。

当日は 62 家族 121 人の相談者が来場し、見学者や運営スタッフを合わせると約 180 人の参加者でした。相談者のルーツのある国・地域は 9 ヶ所で、中国語、英語、タガログ語、ネパール語、タイ語、フランス語の 6 言語の通訳者に協力をお願いしました。

相談家族数	62 家族 (生徒 54 人、保護者等 67 人)
ルーツのある国・地域	アメリカ、ウクライナ、 コンゴ民主共和国、ネパール、 フィリピン、南アフリカ、 韓国、中国、日本

全体説明の様子

会場では、高校の種類や入試スケジュール、出願までに準備するもの等についての全体説明を行った後、通訳者を交えて高校教員や支援団体に相談できる個別ブースに案内しました。

個別相談の様子

相談ブースでは、受験の時期が近づいてきたこともあり、具体的な高校名を挙げて、その様子について質問する来場者の姿が多く見られました。一方で、終了後のアンケートには、高校入学後の日本語学習に対して不安を感じていたり、入学後に日本語以外で勉強できる高校を求めたりする意見が多数あり、進学後に予想される問題に悩む来場者の心情に改めて気づかされました。

◎高校入試に関する情報は、当センターや進学ガイダンスのホームページで見ることができますので、ご活用ください。「日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイド」も日本語・英語・中国語・ネパール語で読めます。http://www.tokyoguidance.com/

◎令和 7 年度（2025 年度）東京都立高校の「在京外国人生徒等対象 4 月入学生徒の選抜」の受検希望者は、事前の応募資格確認が必要です。

1．日時と会場

日時：12 月 1 日（日）,15 日（日）,21 日（土）

午前 10:30～午後 0:30（受付は正午まで）、午後 1:30～5:00（受付は 4:30 まで）

＊12/21 は 12/1,15 に来場した人で資格確認できなかった人たちが来場する日

会場：東京都庁第一本庁舎 5 階大会議場（新宿区西新宿 2-8-1）

2．予約について：混雑を避けるため、予約制を導入しています。

アドレス https://logoform.jp/form/tmgform/763319

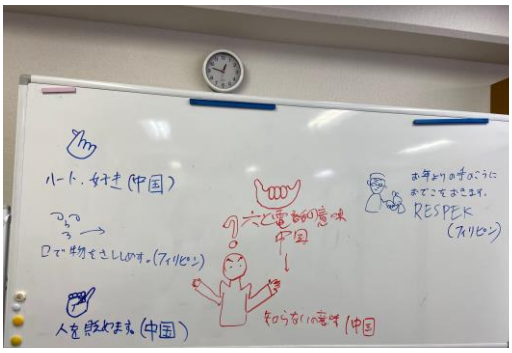
必要な書類等詳細は東京都教育委員会のホームページをご覧ください。

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/admission/high_school/interview/interview2025.html

活動報告

たぶんかフリースクール荒川校

荒川校日本語Ⅰは４月スタートのクラスです。中国とフィリピンからの女子生徒が多いのが特徴で、皆、真面目に勉強に取り組んでいます。７月中旬までに初級文法の復習を終え、現在は中級文法と国語を勉強しています。日本語の文法や語彙などの知識が増えてきたので、作文や発表、ディベートなどにも力を入れています。先日の授業は異文化理解の内容で『私の国の面白い身振り』が学習のテーマでした。ホワイトボードに絵を描いてゼスチャーを入れながら一人ずつ発表です。「中国では親指と小指を立てるのは数字の６の意味です。また、電話の意味もあります。」「中国では小指を立てるのは人を貶める意味になります。」（日本では恋人や奥さんなど「女性」を表しますよね。）「フィリピンでは口でものを差し示します。」「フィリピンではお年寄りの手の甲におでこを置きます。これは尊敬しているという意味です。」発表の後、全員で中国式、フィリピン式、日本式の数え方、１から１０まで指を使ってやってみました。自分の国の文化や自分の考えを発表する時、皆、堂々としていて嬉しそうです。授業の中でもこんな機会をたくさん作れたらいいなぁと教案作りに頭を悩ませている日々です。　　【講師　井上一恵】



たぶんかフリースクール杉並校

日本語２クラスは７月に日本語ゼロで始まりました。酷暑の夏に、ひたむきにひらがな・カタカナの勉強を終え、現在は５名で初級文法を学んでいます。国籍は中国が３名、ネパールが２名です。

漫画が大好きで、タブレットに可愛い女の子をいつも描いている生徒、ギターを小学生の頃から弾いている生徒、空手や身体を鍛えることが好きな体育会系の生徒、寡黙ながら見たこともなかった漢字を着実に学んでいる生徒、そしてサッカーを毎日のように練習し、将来はスペインに行きたいと願っている生徒。それぞれ個性が豊かです。

今では簡単な冗談が言えるようになり、時には賑やかに学んでいます。日本の漫画やアニメの影響は大きく、「どうして（日本の）漫画は、悪い言葉が多いんですか？」と習ったばかりの構文を使って質問する姿も見られます。（※下線部が、その時に勉強していた日本語の構文です。）

１１月から受験指導が本格化し、生徒たちも将来と向き合い始め、表情や眼差しに真剣さが増してきます。日本の高校入試に対する不安や迷いもありますが、遊びに来てくれる先輩たちの楽しい高校生活の話や、「フリースクールでの勉強をしっかりやれば合格できるよ！」というアドバイスに励まされ、不安を抱えながらも一歩一歩、未来に向けて確実に歩み始めています。　　【講師　須山ちさと】

ボランティアの活動報告

土曜日学習支援教室

私が土曜日のボランティアに参加し始めてちょうど１年になりました。教室に来る子どもたちとボランティアのマッチングは、その日その場で決まります。ボランティアを始めた当初は、日本に来てどのぐらいなのか、日本語はどのぐらいできるのかなど事前情報がなく“初めまして”の状態でスタートすることが多かったのですが、何度も参加しているうちに少しずつわかる顔も増えてきました。「今日はどんな人の担当になるかな」といつも楽しみにしています。

ある日、小学校低学年の女の子の担当になりました。初めての担当だったので、「お名前は？」と尋ねると、困ったなあ…という顔をして笑っています。あ、日本語が全然わからないんだ、と気付きました。なので、その日はカードを使ってひらがなを読む練習をしました。数か月後、同じ女の子の担当になり、前回と同じように「お名前は？」と聞いてみると、今度は元気よく名前を言ってくれました。それで、うれしくなって「今日は何を勉強しますか。」と聞くと、その子は「〇月〇日です！」とその日の日付を答えました。“勉強する”はまだ知らないんだな、でも“今日”はわかったんだ、とやはりうれしく思いました。今度担当になる時は、どんな成長をみせてくれるでしょうか。今ではそんな楽しみも感じながら、毎回ボランティア教室に足を運んでいます。　【ボランティア　広田周子】

たぶんか放課後教室

子どもたちの支援を一緒に行っている東洋大学の学生さんからの活動報告です。

放課後教室では、各学期末にお楽しみ会を大学生が企画して実施しています。今年度は７月に第１回目を開催し、例年より多くの生徒が参加し、楽しい時間となりました。生徒たちは毎回楽しみにしてくれており、準備をするのにとてもやりがいを感じています。

お楽しみ会では、生徒と大学生が一緒にゲームを行います。私たち大学生は、大学の授業後に集まって、ゲームのお題を考えて、実際にシミュレーションをしたりもして、楽しみながら準備しています。

今回は、新しく通い始めた生徒も多かったので、楽しくお互いを知ってもらえるように「嘘つき自己紹介」をしました。これは自己紹介の中に一つだけ嘘を混ぜて、何が嘘かを他の人があてるというもので、普段あまり話していない生徒同士の交流のきっかけにもなりました。また、言葉を使わずに楽しむ「お絵かき伝言ゲーム」も行い、日本語が得意ではない生徒も絵で伝えることで、みんなで盛り上がりました。最後には、恒例のビンゴ大会を行い、学生たちが選んだお菓子を配りました。お菓子の買い出しでは外国から来た生徒たちにどんなお菓子が喜ばれるかを考えて、あまり馴染みがなさそうな駄菓子を選ぶ工夫もしています。

今回のお楽しみ会では、国や文化、言語の壁を越えて全員が楽しく過ごし、お互いのことを知り合うことができることを目指しました。生徒たちの笑顔を見て、大きな達成感を感じるとともに、放課後教室をさらに生徒たちにとって良い時間にしたいという気持ちが高まりました。　【呉金群、尾崎雄太、牟常昊】

活動報告　荒川区立小中学校：ハートフル日本語適応指導事業

私のハートフルの日本語補充学習指導も２年目になりました。声が出なくなったこともありましたが、担当日は休むことなく、教室へ通っています。私の中学生への日本語指導は、1997 年の日本メキシコ学院に遡ります。当時は、教室の中で事故なく日本語の授業時間を過ごすのが精一杯でした。それからもう四半世紀以上が経ち、様々な形の日本語教育を経て、今やベテランの域に入ってきました。

さて、９ 月から日本の中学校は２学期で、補充教室の生徒も新しくなりました。今は、４人とも中１の男子生徒で、部活に参加しています。ネパールから来た２名はサッカーで、中国からの２名はバスケと吹奏楽です。彼らの日本語では、十分な意思疎通はできないかもしれませんが、そのハンデをものともせず、日本人の中に入って行こうとしています。

９月に２人の生徒が移動教室に行きました。授業でその体験をシェアしてもらいました。山梨の清里で楽しい経験をしてきたようです。ところが、10 月に移動教室がある生徒が、「お風呂が嫌だ」と言い出しました。初めて日本の大きいお風呂に入った２人は、「気持ちがいい。楽しい。」と、彼の不安を消しとろうと、声をかけていました。何ともほほえましい光景です。

補充教室は、日本語学習を通した人間教育の場だと思います。自分と違うものを認め、互いに尊重し合えるような人間関係を作っていってほしいです。そして、日本での暮らしを楽しく、有意義なものにしていってほしいと思います。補充教室では週３回、そのサポートをしています。　【講師　建木千佳】

先生の声 インターン

今年度フリースクールで授業を開始した先生と新しいインターンを紹介します。

櫻井　智仁先生（数学）

小中学校の放課後学習の講師を続けてきましたが、縁あって昨年から杉並校で数学の授業に携わっています。なれない環境へのハンデと、友人の少なさに不安を感じているはずの子どもたちが、いつも明るく前向きに取り組んでいる姿に感動を覚えます。わずかでも、彼ら彼女らの夢と将来に役に立てばという気持ちで授業に取り組んでいます。

陳　林珺さん（インターン）

私は中国の高校に進学して一年後日本に来て、最初はなかなか日本語を話すことができませんでした。不安に包まれた時、友人の紹介で多文化フリースクールに入って、一年間の勉強が始まりました。多文化で友達が出来て、平凡な学校生活が楽しくなりました。私はみんなより年上で、見えない心の負担はかなり重かったので、自分の努力を無駄にしないようにもっと頑張りました。みんなの支えで、無事に高校入学ができました。

私は現在多文化のインターンとして働いています。自分は同じ経験をしていて、後輩の悩みなどがよくわかるので、みんなが無事に高校へ進学できるように、一緒に頑張りたいと思います。少しでも力になれれば嬉しいです。

今の私になるまで…　トゥラダル　ラガブさん

フリースクールを卒業した若者は、どんな道をたどっているでしょうか。今回は 2017 年度たぶんかフリースクール新宿校の卒業生で家族とネパール風居酒屋の経営に携わっているトゥラダル　ラガブさんに寄稿いただきました。

2017 年、私は中卒の 17 歳で、ネパールから来日しました。来日して初めて口から出た言葉は「わからない」でした。実に当時はそうでした、何もかもわからなかったです。言葉もわからない、道もわからない、文字もわからない、何もかもわからない。そんな時に、私はたぶんかフリースクールと出会いました。私にとってたぶんかフリースクールは救世主でした。たぶんかフリースクールでは、約９か月在籍しました。その９か月の間にひらがな・カタカナから、漢字まですべて学びました。その時感じたのは“日本語は難しい”です。でも、たぶんかフリースクールの先生方に手伝ってもらって、東京都立竹台高校に合格しました。高校受験合格者発表日は、ちょうど母親の誕生日２月２日で高校に合格できて、最高のプレゼントができたと思います。

竹台高校では、日本の文化、日本の日常について学びました。高校でたくさん友達を作って、たくさん日本語に触れて日本語になれました。高校では一般の日本人学生と一緒に授業をうけました。最初は何もわからなくて英語と数学以外の授業は、つまらなかったですが、どんどん言葉と文字、言っていること分かるようになってきて、授業が楽しくなりました。そして、あっという間に３年がたち、竹台高校を卒業しました。

卒業後は、東京情報大学総合情報学部総合情報学科に進学しました。大学ではシステム開発について学びました。大学時代は、コロナウイルスのピークで、すべてオンライン授業でした。友達もいない、学校も行かなくていい、ベッドに寝たまま授業を受けられる。聞く分にはめちゃくちゃいいけど一日中家にいるのは退屈すぎる、つまらない。そこでお店を出そうと考えました。発想から行動まで時間がかからず、考え出した１か月後には、法人「合同会社パナス」が出来上がりました。その後千代田区の水道橋で「ラミちゃんの台所」を出店しましたが、経営管理の資格がない為、店舗のオープンは、できません。その後、代表社員である母親「カシャパテイトゥラダルラミタ」の経営管理資格変更のため、入国管理局に出願手続きをしましたが、却下されました、原因は日本の労働法の条件を満たしていなかったからです。店舗のオープンができていないのにどうやって事業員を雇うのですかと入管の担当者ともめました。最終結果、事業員雇用の再申請をすることが決まりました。再申請後、入管から資格変更の許可が届き、「わー！」とすごく嬉しかった。それから５年、今「ラミちゃんの台所」水道橋店と館林店の２店舗を経営しています。日本に来て９年間きついことも、楽しいこともありました。最初は何度かあきらめようとしたけど、諦めずに頑張って来ました。これからも頑張り続けます、私の名前はトゥラダル　ラガブです。どうぞよろしくお願いいたします。

「ラミちゃんの台所水道橋店」ネパール料理、インドカレー、居酒屋

千代田区神田三崎町 2-12-5 ニュー千代田ビル 1F　水道橋駅徒歩３分　TEL：050-5872-5929

特定非営利活動法人 **多文化共生センター東京**

ビジョン

私たちは、国籍、言語、文化の違いをお互いに尊重する多文化共生社会を目指しています。
外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。

基本的人権の尊重	**少数者への力づけ**（エンパワメント）	**社会へのアプローチ**
「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する	自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく	「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ（大変さ・楽しさ）を理解し、多数者である「日本人も」変わり、少数者とともに生きていく

ミッション

・外国にルーツを持つ子どもたちの教育機会の拡大に努めます。
・外国にルーツを持つ子どもたちが個性や能力を発揮し、日本で活躍できるような教育の実現に取り組みます。
・国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。

ご支援のお願い

〇当センターの活動や、当センターで学ぶ子どもたちをサポートするためのご寄付をお願いいたします。

一般寄付
多文化共生センター東京の活動全体へのご支援
▷ **都度寄付**：1回限りの寄付をして活動を支援
▷ **マンスリーサポーター**：毎月定額を寄付して活動を支援（カード決済）

たぶんか子ども基金
経済的な理由から「たぶんかフリースクール」の授業料を負担することが難しい家庭等、子どもたちの学びを継続するための支援

次のいずれかの口座へのお振込み、または、クレジットカードからお手続きをお願いいたします。
・郵便局から：00110-8-407588／多文化共生センター東京
・銀行から：ゆうちょ銀行／019店／当座0407588／トクヒ）タブンカキョウセイセンタートウキョウ
※クレジットカードでのご寄付は、ウェブサイトからお申込みください。

〇当センターの趣旨に賛同し、団体運営にかかわってくださる会員を募集しております。
・正会員　年会費5,000円　（正会員には総会での議決権があります）
・賛助会員（個人）　年会費1口1,000円、3口以上
・賛助会員（団体）　年会費1口30,000円

みんぐる Vol.79　2024年11月発行
編集：多文化共生センター東京事務局　発行：特定非営利活動法人多文化共生センター東京
※「みんぐる」は、英語“mingle”＝「(2つ以上のものが各要素で区別できる程度に）混ざる・一緒にする・交流する」から名付けました。

認定NPO法人
多文化共生センター東京
Multicultural Center TOKYO

【事務局・たぶんかフリースクール荒川校】
住所：〒116-0002　東京都荒川区荒川3-74-6
（メゾン荒川Ⅱ201）
TEL/FAX：03-6807-7937
e-mail：info@tabunka.or.jp
Open：火曜日～金曜日…午前9時から午後6時
土曜日　…午前10時から午後7時
ウェブサイト　https://tabunka.or.jp

【たぶんかフリースクール杉並校】
住所：〒167-0021　東京都杉並区井草2-35-5
（杉並育英SITEC（サイテック）内）
TEL：03-6915-0200
Open：火曜日～金曜日…午前9時から午後6時

**フェイスブック、Xでも活動の様子を発信しています。
ぜひご覧ください！**